

- 若年性軽度認知症・高次脳機能障害デイケア（介護保険非適用）
- 地域学童保育
- ケアマネジメントセンター
- 土曜日プログラム
- ソーシャルスキルトレーニング
- ペアレントトレーニング
- 認知症介護相談事業（カフェ事業）

まどか \* 円 \* えん \* 縁 \* えにし \* 縁 \* えん \* 円 \* まどか

< 5年目もよろしくお願ひいたします >



どうも時間というヤツは、均一に流れないらしいです。  
4年という歳月を経て、いまだに立ち止まったままのような気がしています。

年月を重ねるということは、同時に旧態依然としていることである。と言った人がいましたが、常に新陳代謝を繰り返しながら元の形を保って行くという、細胞分裂に似た営みが大切ですね。その中に少しずつ「進化」や「変異」を起こしていき、時代のニーズに合わせた活動をめざしています。

人間の全細胞も、一説には4年程度で入れ替わり、全く別の存在になるといわれています。まどかも、レトロなくせに全く新しい存在として活動していきたいと思ひます。

地域のニーズは限りがありません。少しでも豊かで、便利で、優越した生活を望んでいます。ホームページにも書きましたが「倦まず、弛まず、驕らず、妬まない」柔らかな地域社会に、貢献したいと思ひています。

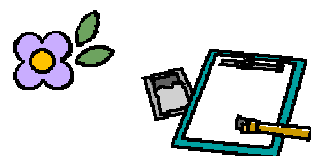
5年目もよろしくお願ひいたします。

## ちかごろのまどか

今年も、自然の恵みを頂きました。  
夏から秋にかけて、ほとんど手を入れない雑草だらけの耕作放棄地にでも、サツマイモが育ちました。  
私たちスタッフも、高齢化が目立ちますので、そろそろ、耕作をやめようかと思ひています。  
その代わり、花の種でもたくさん蒔いてお花畑にでもしようかと、密かに考えています。



## ボランティア



まどかでは、いっしょに活動していただけるボランティアを常時募集しています。ともに地域福祉を拡げていきませんか？

特に、小学校低学年に「英語」や「習字」を指導して頂ける方、お待ちしています。



お問い合わせは



ホームページで！！

## 特別寄稿 まどか理事の武藤幸枝氏から特別寄稿を頂きました

### 発達障害児支援活動で思う事

日本カウンセリング学会認定カウンセラー・スクールカウンセラー推進協議会認定ガイダンスカウンセラー  
武藤 幸枝

発達障害を持つ子どもたちとの最初の出会いは13年前でした。「先生、支援学校の1年に家の子が入ります。重度の障害ですけど他の子と同じように何か習い事をさせたいのですが、どこも受け入れてくれません。絵が好きなので絵を教えてもらえますか。他に4人います。普通学校の支援学級に入る子もいます。」という保護者からの依頼でした。知人からの紹介があったとはいえ、発達障害について内容は知っていても支援となると初めてでもあり躊躇してしまいました。

場所が無いところをある社会福祉施設が「施設利用者（知的・精神・発達）のリズムやレクを担当してもらえたら、場所は自由に使ってほしい。」との申し出があり、それから今年で13年間、その施設の利用者との関わりも長くなりました。

初めての教室の日、座っているのは1人で、後の4人は、建物の水道栓を全部あけてしまう子、後を追いかけて締める親、動きっぱなしで騒ぐ子、等々「目が点」になったことも楽しい思い出となりました。今年3月、6人が支援学校の高等部を卒業していきました。現在は来年卒業の3人が「ピカソクラブ」で毎月集まり創作教室で作品を作っています。

それぞれの成長には目を見張るものがありますが、なにより感動するのは彼らを日々育てている保護者の方々の熱心な子供への働きかけです。一人ならくじけてしまうことも何人かの同じ困難さを担う親たちとの連携で、いつもニコニコ顔の母親の顔を見て子供たちは育ちました。

障害児の支援には、同時に保護者への支援が欠かせないものです。私も3か月に1回ほどの頻度で、親たちの「色彩ワーク」をやって、今の自分のストレスを吐き出してもらい、年1回は自分を飾る「アクセサリー作り」を行ったりしています。卒業生たちはそれぞれが「通所施設」や「作業所」に通っています。みな自分の居場所を模索しています。

3年前から「県子ども家庭課 放課後子どもの居場所アドバイザー」として、県内各地依頼があるところの児童施設に伺っています。相談される内容の殆どが学童施設に在籍する「発達障害児」への対応についてです。学校と違い、親との連携が取れない事が問題を長引かせていますが、最近は親の方からカウンセリングを受けたいとの申し出があり、県内のある市では福祉課が中心になり県に依頼を出して、私が出向いて親との面談をしています。保護者も大きな困難を抱えているものの、それを支援する固定された施設が無いのが大きな問題です。

「まどか」のようなNPOの場合は、ほとんど「出血サービス」で活動を取り入れている状態でもあります。発達障害児が増えている昨今、支援機関に対する行政側の助成を心からお願いしたいと思っています。

### まどか土曜日プログラム 今後の予定



毎回好評の土曜日プログラム。26年度の後半は下記の通りです。  
奮ってご参加ください。

12月	久松さんのそば打ち教室	今年もやります。5回目。名人・達人技！
1月	武藤先生のカラーセラピー	
2月	菊池美和子先生のバレンタインスイーツ	?をお届け。簡単すぎても満足感120%
3月	菊池みどり先生のダイエットスイーツ	管理栄養士のトクホ・スイーツ？



## 若年性認知症相談 & 認知症カフェ事業



若年性認知症ケア事業・認知症カフェ事業・認知症介護相談事業

若年性認知症のため、自宅にこもりがちの方。既存の高齢者施設には抵抗感がある方。一度ご相談ください。

9月は認知症を知る月間だったので、報道も多かったと思います。

正しく知れば、認知症は怖くありません。身近でないから疑心暗鬼。

身近でないから、差別や排除の対象になってしまうのです。

いまのところ治癒の希望は見えませんが、支える事はそう難しいことではありません。

お困りの方は、ともかくご相談ください。

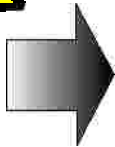
まどかの認知症介護家族支援事業では、在宅で介護されているご家族とともに来所頂いて、ともに見守ったり、好きな作業を行ったりして時間を過ごします。

どちらも、詳しいことは電話、ファックス、メールでお問い合わせ頂くか、ホームページでご確認ください。

お問い合わせ、お申し込みは、電話029-867-6117 もしくは下記番号まで。



こちらも  
ご注目！



認知症介護相談事業を行っています！！

悩みや負担感を遠慮なくお聞かせください。

専用電話 029-867-5233

居宅生活支援事業も行っています・・・対象とする利用者の自宅を訪問しての支援です

軽度認知症の方のご自宅に訪問し、話し相手・散歩・病院の付き添いなど、いわゆる家事援助以外の支援を行い、利用者の「出不精」を緩和し、他人との交流のきっかけ作りを行います。詳しくはお問い合わせください。

## 学童保育部門

つくば市では、小中一貫校にシフトしています。一方、中高一貫校もあります。

有名私立校には、中高大一貫やら幼小中高大一貫なんてのもあります。

何が何だか分かりませんが、人口希薄地での一貫校は親も子どもも人間関係が悩みの種だと思います。人口過密地で、少なくともクラス替えが可能な所とは、本質的に条件が違ふようです。

どんな環境でも、力を発揮する子は、放っておいても伸びるのですが。

周りが我慢できないらしいです。

就学後の特別支援学童保育も可能です

あらゆるニーズにお応えするのがまどかのコンセプト！

制度で対応できない発達期の支援

についてもお気軽にご相談ください。



介護保険サービスを利用されたい方に、ケアプラン作成及びサービス事業所との連絡調整を行います。



## まどかサポーターのご案内

まどかのサポーター会員の方を募集しています。社会にある、福祉問題に関心がある方、活動に賛同して頂ける方は、是非仲間に加わってください。小さな地域の輪が、いずれ大きな運動につながることを確信して・・・継続が力です。

正会員 : 年一回の総会で表決権一票を持ちます・・・・・・年会費 5千円  
 準会員 : 総会にて意見を申述できますが表決権は持ちません・・・・年会費 3千円

(2014年11月1日現在 正会員 45名 準会員 24名)

会員特典! 茨城県の観光名所、袋田の滝の入口、目の前にある『菊池みやげ店』さんのご協力で、会員証ご提示の方に、飲食時に特別サービス品をご提供頂けます。飲食しない方にも、おみやげ購入時にサービス品の提供が受けられます。奥久慈に行かれた際は、是非お立ち寄りください。



## 児童用図書やコミック・ゲーム・消耗品等のご寄付のお願い

ご家庭に眠っている、貴重な宝物を、まどかで是非活用させて下さい!

皆さんの善意で成り立っているまどか、何でも構わないので、心当たりがあったらご連絡ください。カードゲームやコミック(ただし健全なもの)、VHSのビデオ(デッキごと)なんかありませんか? 折り紙やクレヨンや色鉛筆などの半端なもの。

塗り絵用の原画とか、「本読み」タイムに使える絵本や小学校低学年用の単行本など、捨てるくらいなら是非ご寄付をお願いします。

\*\*\* ゆめのあとさき ~編集後記~ \*\*\*



最近、巷の経済が元気で、喜ばしい限りです。マスコミやエコノミストは浮かれていて、とても頼もしいです。日本の技術力も世界に誇れるし、将来に希望を持って生きられる時代は、充実感と高揚感に満ちていますね。若者も目的を持って生きている人が増えてきているみたい。頑張れ!と言いたい。

かの「IS・・・」にしたって、既存の秩序に対するレジスタンスで『解放』が目的と言えなくもない。でもせいぜいプロテストソングくらいにしておけば良いのに・・・。

と、思っていたら『フラストレーションのエネルギーを福祉の職場で発揮して欲しい』というような意見を見つけました。アナーキストの福祉職員・・・・。皆さんはどの様にお感じになりますか。

文責 理事長 渡辺隆生 (つくば国際大学講師 社会福祉士)